


| | | | | |
|-------------|-----------------------|------|-----|---|
| ふりがな 氏名 | かげうら じゅんこ | 都道府県 | 愛知県 |  |
| | 影浦 順子 | | | |
| 所属/肩書 | 中部大学中部高等学術研究所／研究員 | | | |
| 私の ESD活動 | 中部 ESD 拠点の ESD 活動について | | | |

発表者(右端から二番目)

活動の概要 (特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください)

私は、昨年度より、国連大学から認定を受けた世界約 100 か所の ESD 地域拠点のひとつである中部 ESD 拠点の研究員・事務局員として、中部 ESD 拠点のプロジェクトを補佐してきました。中部 ESD 拠点は、活動対象地を、愛知・岐阜・三重県のエリアとし、地域の持続可能な発展を妨げる自然・経済・社会の諸課題に取り組むため、ESD の「ネットワークづくり」に取り組んでいます。具体的には、2014 年に愛知で開催される「ESD に関するユネスコ世界会議」に向けて、ESD の中部モデルづくりを行う「中部 ESD 拠点 2014 年プロジェクト」を実施しています。中部 ESD 拠点「2014 年プロジェクト」とは、ESD を推進するための「中部モデル」を構築することを目標に、2012 年 7 月 7 日のキックオフ会合から開始したプロジェクトです。現在は、主体別分科会(①企業と NPO、②学校教育、③大学教育)と、横断的テーマ別分科会(④国際協力、⑤伝統文化)の計 5 つの分科会において、異なる切り口で ESD を推進する手法を模索しています。申請者はこれらの運営体制づくりや各種イベントに対して主体的な活動を行ってきました。

また ESD の更なる発展については、ESD の理念を、行政と市民が連携をしながら日本社会に「啓発」するだけにとどまらず、しっかり「根付かせてゆく」ことがまずもって重要であると考えます。一過性のイベントで終わらせるのではなく持続的な活動とする必要があります。「横断的なテーマ性」をもつ ESD は、こうした高度な専門性をもつ限界を内的に見つめ直し、日本社会や若者世代をグローバル化させ、地球規模の問題を積極的に考えるための契機を与える問題提起と考えます。この点を、日本の将来を担う若者世代に啓発するとともに世界に発信してゆきたいと考えます。

・中部 ESD 拠点: <http://chubu-esd.net/>

今後の ESD の発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

地球規模で起きているさまざまな問題を解決するためには、専門家による「専門知」だけでなく、それらの課題に具体的に対応している企業や NPO の「経験則」や、地域に根づいた活動を行っている市民の「地域知」などを統合させてゆくことが重要です。中部 ESD 拠点では、そのための取り組みのひとつとして「2014 年プロジェクト」を始動し、さまざまなステークホルダーが集う「場」の設定、情報交換や連携を行う「ネットワーク作り」を行ってきました。個別の団体や組織を「ESD」という横串でつないでゆく、多面的な討論の場を作りあげてゆくためには、柔軟な思考力と行動力を持った「若者世代」が主体的に動いてゆくことが重要です。本コンファレンスでは、中部 ESD 拠点の取り組みを紹介するなかで、個々バラバラになっていた諸活動や組織をどのようにして若者世代がつないでいったのか、その具体的な貢献について発表をしたいと考えます。